



〈公開授業②〉『「団結剣」 若者と労働組合が出会うとき ——その意義と可能性を考える』

仕事に就けない、就けても非正規雇用（ワーキングプア）だったり、ブラック企業で過重労働に追い込まれたり。若者の雇用・労働をめぐる問題がこれでもかこれでもかと言わんばかりに報道で流れている。それに対して、どんな対処の仕方があるだろうかと学生に問えば、思いつくのは、政治による規制（労働政策）だろうけれども、じつは、労働組合という道がある。そのことは中学や高校の授業でも習っているはずだが、実際には学生には縁遠い世界だ。そこで、残業代未払いに長時間労働という職場の現状に悩み、労働組合にたどりつき、仲間たちと一緒に（カタイ言葉でいえば集团的労使関係のもとで）職場を改善している当事者（札幌地域労組）を授業にお招きし、今日の職場労働の実態と労働組合の意義をお話ししてもらった。題して「若者と労働組合が出会うとき—その意義と可能性を考える」。学生たちは自らの将来と重ね合わせ、話に真剣に聞き入っていた。

※なお、いずれの授業も「記録」をとりまとめて以下に掲載しています。
▶ <http://www.econ.hokkai-s-u.ac.jp/~masanori/index>



〈公開授業①〉『上田文雄市長と、大学生が 市政を考える コーケイヤクを考える 公開授業』

上田文雄札幌市長をゲストにお招きし、「市政を考える、コーケイヤクを考える」と題した公開授業を行った。いま全国の自治体において、自治体が発注する仕事の「値崩れ」が起きている。背景には、自治体の財政難ももちろんあるが、最小の経費で最大の効果が自治体にはそもそも求められること（「地方自治法」）、あるいは、官から民へという積極的な「改革（官製市場改革）」がある。安くて何が悪いのか？税金が安くすんでよいのでは？と思われるかもしれないが、ことはそう簡単ではない。結局それは、そこで働いている人たちの賃金・労働条件の悪化をもたらしてしまうからだ。官がワーキングプアをつくりだしている（官製ワーキングプア）という問題である。札幌市がいま制定を目指している公契約条例はこうした問題に歯止めをかけ、地域経済や自治体財政の改善をねらいとしている。市民一人一人が自らの課題として考えてもらいたいという市長のメッセージを学生たちはしっかり受け止めていた。

〔平成 25 年 1 月 16 日〕 1 部ゼミナール

小林淑憲ゼミ NIE 特別講義

1月16日(水) 4 講目に小林淑憲ゼミナールで、NIE（Newspaper in Education）の特別講義として、日本経済新聞社による本年度 2 回目の「日経セミナー」が行われました。前回（平成24年10月29日）は主として就職活動に関連づけて新聞の読み方を中心にお話し頂きましたが、今回のテーマは面接対策が中心でした。就活を始めたばかりの学生の多くは、面接の受け方が分からないという悩みを抱えています。そこで、そもそも企業はなぜ面接をするのか、といった根本的な問題から説き起こし、仕事ができる人材とはどのような人か、自分を面接官にどう伝えられるか、面接官は圧迫面接で何をしようとしているかなど、面接を受けようとするときに考えておきたい問題とその答えが目白押しというセミナーでした。講演は1時間ほどで終わりましたが、その後、学生から相次いで質問が飛びだし、充実したセミナーを経験できました。



熱心に講義を聴くゼミ生たち

〔平成 24 年 11 月 20 日〕 特別講演会

グアティマラ・マヤ先住民族女性の声 「沈黙を破って」 ● アナ・アリシア・ラミレス・ポップ氏

2012年11月20日に中米・グアティマラのNPO「社会心理行動と共同体研究グループ（ECAP）」のアリシア・ラミレスさんを招き、講演していただきました。グアティマラでは、1996年まで続いた内戦中に兵士らによる性暴力被害を受けた女性たちがいま、加害責任の追及に立ち上がっています。偏見や差別などの困難に立ち向かい、自らの尊厳回復を求める彼女たちの活動を支える現地NGOの取り組みは、被害を告発する民衆法廷を皮切りに、刑事裁判の実現へと結びつきました。同時にこの活動は、被害女性たちのメンタルケアにも重点が置かれています。

本学では、2010年の民衆法廷直前にも同NPOの方に講演をいただき、今回はその後の報告でもありました。定点観測的に問題を認識することは、重要であり、大学ならではの取り組みです。このような現状や活動の紹介に、参加した学生・市民は熱心に耳を傾け、多くの質問が出されました。中には、今後の経過にも注目したいという意見もありました。



会場ではグアティマラの工芸品なども紹介された。右はアリシアさんを囲んで、通訳の新川さん、本学森下経済学部長と平野准教授との記念写真

econ. No.27 2013. 冬・春号

発行：北海学園大学経済学部

〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1-40 TEL. 011-841-1161(代表) FAX. 011-824-7729

<http://econ.hgu.jp/> 北海学園大学エコノ 検索 E-mail: kyomu-za@econ.hokkai-s-u.ac.jp

制作：株式会社 ラボット

R100
古紙/バブル配合率100%再生紙を使用